概要

Human Development Report

アフリカ人間開発報告書 2012

食糧が安定確保される未来に向けて

Empowered lives.
Resilient nations.

概要

Human Development Report

アフリカ人間開発報告書 2012

食糧が安定確保される未来に向けて

国連開発計画（UNDP）

Empowered lives.
Resilient nations.

はじめに

この10年、アフリカは目覚ましく経済成長を回復させてきた。アフリカには世界で最も速い経済成長を示している幾つかの国があり、それらの国々は世界を覆っている経済不安のただ中にあってさえ発展してきた。成長は、この地域で大いに必要とされてきた貧困の軽減をもたらし、将来に対する楽観的な見方を生み出してきた。人間開発には経済成長が極めて重要であることに疑問の余地はないし、持続可能な成長が不可欠である。しかし、成長自体がそれだけで十分であるわけではない。この初の国連開発計画（UNDP）アフリカ人間開発報告書が示しているように、アフリカの急速な経済発展は、いまだに飢えにあえいでいる住民の大部分の食糧の安定的確保をもたらすにいたっていない。経済成長だけでなく、それを越えて広がる―人々を開発の中心に確固として位置づける―発展に対するアプローチは、1990年に創刊されたUNDPの人間開発報告書（HDR）の中心的なメッセージとなってきた。

2000年以降、アフリカは何度も急激な食糧不足に陥り、生命とまともな暮らしの膨大な喪失を余儀なくされてきた。本報告書発行の時点でも、アフリカ西部のサヘル地帯（サハラ砂漠周辺地帯）がさらなる厳しい食糧危機に見舞われている。2011年だけでも、アフリカ北東部「アフリカの角」で何百万人もの住民が同様な事態に陥り、ソマリア各地で飢饉が広がっている。旱魃、作物の不作、その他の災厄が、しばしばこうした危機の引き金になっているのは確かである。だが、真の原因はより根深いところにある。

本報告書が示しているように、不作や食糧不足だけが飢饉や飢えの原因ではない。よりよくある問題は、食糧に対する不平等なアクセスである。これは、住民が食糧を入手する手段を欠いている場合に起こる。つまり、この不平等なアクセスは、多数のアフリカ住民にいまだに影響をおよぼしている低収入と高水準の脆弱性の現れなのである。飢饉は大々的に報じられ、時折、各国当局や援助機関の場当たり的な行動を呼び起こしているが、慢性的な栄養不足や長期的な飢えという表立たない危機は、ほとんど注目されないままとなっている。しかしながら、最近のアフリカの経済的活況の中でさえ、こうした問題の影響は世代を越えてアフリカ住民たちに感じとられるであろう。子どもたちからは未来を奪い、親たちから尊厳を奪い、人間開発の進展を阻害することとなる。

すべてのアフリカ住民が安定した食糧を確保できるという将来を構築するためには、極めて重要な分野に焦点を絞って措置を講じる必要がある。すなわち、小規模自作農の生産性の向上、子どもたちの栄養増進、回復力のある地域コミュニティや持続可能な食糧供給システムの構築、女性や地方の貧しい人々のエンパワーメントといった分野である。食糧の安定確保は、各国当局や援助機関の垣根を越えた課題であり、各国の開発指針の全体にわたる課題である。また、最も厳しい危機に対してさえ、人々とそのコミュニティの回復力を強化するための人道的任務と開発をより良く統合する必要がある。食糧の安定確保をそのように捕えた場合にのみ、成功を収められる。

この至上命題が、サハラ砂漠周辺地帯の4か国における「ミレニアム開発目標（MDGs）」加速フレームワークの実行を支える原動力である。このフレームワークは、MDGsの目標1の食糧の安定確保と栄養向上に関する目標達成のボトルネックと制約を特定することによって、また各国政府、国連システム、他のパートナーの間の調整（資金拠出を含む）の強化によって、進展のスピードアップを目指すものである。UNDPはこのような共同での横断的な努力に深く関わっている。また、こうした努力が、増え続ける人口に対する食糧供給、環境悪化の回避、気候変動の影響の軽減というさまざまな課題を克服する上でさらに重要であると見ている。

本報告書の分析と推奨は、アフリカにとどまらず、それ以外の地域の学者、研究者、政策立案者、開発実務者との広範な協議から生まれたものである。これが人間開発報告書の

もう一つの特徴である。彼らは、独立した厳密な分析と、開発にとって極めて重要な課題に関する開かれた議論に議題を提供している。私は、この初のアフリカ人間開発報告書が、いかにしてアフリカにおける食糧の安定確保を強化し、人間開発を加速させるのかということに関する議論を活発化させ、より決定的な行動につながるものと期待している。私たちは常に、アフリカの食糧不安と飢餓の根絶に努めなければならない。

Helen Clark
ヘレン・クラーク
国連開発計画（UNDP）総裁

序文

過去30年、アフリカの各国政府がそれぞれの国民の要望に応えてきたのなら、本報告書は必要ではなかったであろう。サハラ以南アフリカの住民の4分の1は栄養不足にならなかったであろうし、アフリカの子どもたちの3分の1は発育不良にならなかったであろう。また、アフリカの極めて多くの農民は、痩せた土壌の小さな畑に頼る惨めな暮らしをせずに済んだであろう。この地域は食糧が安定的に供給されるようになったであろうし、この地域の人間開発とよりうまくいっている地域の人間開発との格差は、急速に縮んだであろう。

サハラ以南アフリカの慢性的な食糧不安は、何十年にもわたる劣悪な統治から生じている。富の蓄積に汲々とする歴代政権は、この地域の資源を世襲的な権力構造の中で吸い取ってきた。汚職と地位にあぐらをかいて利益にめざとく自己保身に走るエリートたちは、指導者と国民の間に立って国家収入を独占し、地方を疲弊させて、雇用も産業も創出してこなかった。サハラ以南アフリカ全土で地方のインフラが劣化し、農業が衰退し、ジェンダーや他の不平等が深刻化し、食糧システムが停滞してきた。農業の回復を担うはずの小規模自作農は、苦しみの中に置き去りにされてきた。食糧の安定確保の再構築は、彼らをこの窮状から解放し、彼らの潜在的な可能性を実現させることから始まる。

この逆境において国際社会の動きも決して誇れるものではない。先進諸国は農業補助金を維持している。これは自国の豊かな生産者を潤しているが、サハラ以南アフリカの貧しい小規模自作農をぎりぎりの状態に追い込んで来た。また、長年にわたり、外国主導の調整プログラムはアフリカ各国の能力を弱めるとともに、各国政府が膨らんだ負債の返済のために食糧生産ではなく換金作物の輸出に資金を回すのを助長してきた。アフリカ各国は、商品価格の下落と、ますます不安定になって高くつく輸入に苦しんでいる。一部の開発パートナーがサハラ以南アフリカの農業分野に十分な関心を払ってこなかったのは政府の農業分野への軽視を反映している。その結果、食料生産者は、しばしば非生産的な条件に結びついた援助に翻弄されている。

食糧余剰という現在の世界にあって、農業資源の豊富な大陸で依然として飢えと栄養不良が蔓延しているという事態は、苛酷なパラドックスと言わざるをえない。根本的な変化が絶対的に必要である。過去10年の目覚ましい経済成長と幾つかの人間開発指標の好転にもかかわらず、サハラ以南アフリカは依然として世界で最も食糧の安定確保が困難な地域となっている。他の地域ではすっかり過去のものとなった飢饉の亡霊が、この地域では何百万もの人々を苦しめ続けている。2011年にはソマリアでさらなる飢饉が発生し、2012年にはサヘル地域（サハラ砂漠周辺地帯）が再び飢饉のリスクにさらされている。

しかし、歴史は定まっているわけではない。アフリカの人々は飢えに苦しむように運命付けられているわけではないのだ。各国政府が決意を持って適切な政策と支援メカニズムの実施に取り組むならば解決できる。飢饉、飢餓、食糧不安は予防可能である。長きにわたり、サハラ以南アフリカには、難民テントと飢えた子どもたちへの食糧配給の光景が結び付いてきた。しかし、あってはならないこの光景は今を最後に排除することができる。

食糧の安定確保の戦略は、アフリカ独自の問題に取り組むのに加えて、世界的な食糧システムの大きな変化にも対応する必要がある。人口増加、天然資源（特に水と土壌養分）の減少、新興国の新たな中流層による肉を中心とした食事への漸進的な移行といった新しい要素が、食糧の生産と消費の形を変えつつある。食糧需要の高まりと食糧供給の混乱に押されて、世界の食糧価格は不安定になっている。そして、食糧供給の混乱は、気候変動、および肥料や石油などの農業投入物の価格変動と結び付いている。

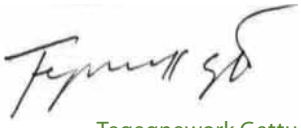
これらの課題の難しさは、サハラ以南アフリカでますます膨れつつある人口によって増幅されている。この地域は、今後半世紀、人口を養うために今よりはるかに多くの食糧を生産する

必要があり、その一方で農業生産が環境に及ぼしている負荷を軽減しなければならない。

半世紀前、アジアとラテンアメリカにおける「緑の革命」が科学と技術の着実な進歩の流れを呼び、それが最終的にこれらの地域の飢饉の克服につながった。こうした変化がアジア全体に広まるにつれて、何百万人もの命が救われた。困窮の地が穀倉地帯になったのである。サハラ以南アフリカでもそれが実現されない理由はない。

アフリカには、飢えと食糧不安を終わらせるためのさまざまな知識、技術、手段がある。だが、まだ政治的な意志と熱意が欠けている。アフリカは世界に食糧を乞うのを止めなければならない。これは、アフリカの尊厳とその潜在的な可能性の両方に対する侮辱である。アフリカ諸国の中には、ジェット戦闘機、戦車、大砲、その他の先端的な破壊手段を購入して配備できる国もある。なのになぜ、農業の専門知識を身に付けられないはずがあろうか。食糧の安定確保に必要な技術、トラクター、灌漑設備、多様な品種の種子、農業訓練に資金を投入できないはずがあろうか。

本報告書では、サハラ以南アフリカが次の四つの重要な変化要因にもとづいて行動することによって、蔓延する食糧不安から脱け出すことができると指摘する。それは小規模自作農の農業生産性の向上、特に子どもを対象としたより効果的な栄養政策、さまざまな衝撃に対するコミュニティや世帯の回復力の強化、女性と地方の貧困層をはじめとする人々の参加拡大とエンパワーメントである。これらの変化要因は、飢えと栄養不良の猛威を終わらせることによって、人間開発の能力を醸成し、その条件を整えることになる。そうすれば、十分な栄養を摂取し、権利が強化された住民は、教育を求め、社会に参加し、生産力を備えた人間としての潜在能力を拡大する可能性がより高くなる。適切な政策と制度を導入すれば、アフリカは、人間開発と食糧の安定確保のこの好循環を維持することができるのである。



Tegegnework Gettu
テゲグネワーク・ゲトゥー
国連事務次長補
兼 国連開発計画（UNDP）
アフリカ局長

アフリカ人間開発報告書2012　目次

はじめに

序文

謝辞

概要

第1章
飢えから人間開発へ

食糧の安定確保から人間開発へ

食糧の安定確保は人間開発とどのように関係しているのか

- 権利: 食糧を生産し、購入し、売買する能力
- 能力: 人間としての選択の基盤
- 食糧にアクセスする権利: 与えられた権利を活かすこと

サハラ以南アフリカの人間開発の傾向と、食糧不安の増大のパラドックス

- 人間開発指標—サハラ以南アフリカは依然として最低水準
- 過去10年—転換期
- 食糧の安定確保は、経済成長と比例して改善されてはいない

指針

- 農業収量の向上が、食糧、収入、仕事を増加させる鍵となる
- 公共政策の中でなぜ栄養面の成果が無視されている分野なのか

食糧の安定確保を可能にする要因: 回復力とエンパワーメント

- 回復力: 食糧システムに対する圧力の軽減、リスク管理、社会的保護の増進
- エンパワーメントと社会正義: 食糧の安定確保の基盤拡大

第2章
あり余るほどの資源がある中で、なぜ食糧不安が持続するのか

食糧の供給力

- サハラ以南アフリカにおける食糧生産のパターンの理解
- サハラ以南アフリカの収穫量の停滞
- 食糧の貿易と援助がどのように食糧の供給力に影響するのか
- サハラ以南アフリカの食糧の安定確保における課題の特徴を把握する

食糧に対するアクセス

- 弱い購買力と蔓延する貧困
- 食糧入手の権利の保護
- 不十分なインフラがコストを高めアクセスを制限している

食糧の消費

- 食糧以外: 生活状態や栄養に影響する他の要素
- 人間開発にとっての価値
- 肥満—栄養不良の二重負荷

不安的な食糧システムが、食糧の入手しやすさ、アクセス、消費を歪めている

- 天候パターンに対する脆弱性
- 食糧価格の変動性
- 暴力と紛争

第3章
いつまでもなくならない課題と、食糧の安定確保に対する脅威の出現

サハラ以南アフリカにおける食糧不安の根深い原因

- 資源と機会の歪み
- 政策の偏向と無視
- 有害な国際慣行

食糧システムと持続可能な開発に対する新たな脅威

- 人口パターンの変化
- 環境の変化—土壌と水
- 気候変動がもたらすさまざまな危機

サハラ以南アフリカのための決定の時

第4章
食糧、収入、雇用のための持続可能な農業生産性

農業生産性の公約実現

- 農業生産性の向上は食糧の安定確保と人間開発を促進できる
- 収量の急速な増加は農業の潜在能力な可能性を実現できる
- 農業収量の迅速で持続可能な増加は実現可能である。

農業生産性のフロンティアへの到達—より速く、より広範で、より持続可能な農業投入物の導入

- 農業投入物の持続可能な消費の促進
- インフラのギャップを埋める
- 融資と保険の市場の拡大

農業生産性のフロンティアの拡大—地元の知識の創出と適用

- 調査と開発による知識の創出
- 革新を通して若者を農業に引き寄せる
- 農業生産性の向上に対する政策による新たな気運の形成

政策オプションの概要

第5章
食糧が安定確保できる未来のための栄養方針

世帯の栄養の欠乏による、人間開発への悪影響
- 栄養不良と貧困の悪循環
- 栄養不良、感染症、病気—致命的な組み合わせ
- アフリカ住民の食事と微量栄養素のギャップ

栄養不良に対する介入
- 栄養介入の組織化
- バイオ技術による栄養強化—および限界の打破
- 世帯の栄養改善
- 栄養の国内開発政策への組み込み
- 栄養に対する世界と地域の取り組みの奨励

第6章
持続可能な食糧システムの回復力と社会的保護

より安定した食糧システムによる人間開発を加速するための回復力の形成

食糧システムに対する圧力の軽減
- 紛争や政治不安の減少
- 国際食糧価格の変動性の低下
- 人口と環境の圧力の軽減

脆弱性の低下と社会的保護によるリスク管理
- 保険市場の開発
- 仕事の創出と生活の保護
- 社会的互換の仕組みの構築
- 戦略的備蓄の管理

食糧の安定確保と人間開発の加速要素としての社会的保護
- 農業投入物に対する農民のアクセスの拡大
- 商品価格を安定させるための地方市場の強化
- 地方インフラの整備

政策オプションの概要

第7章
社会正義、ジェンダーの平等、あらゆる人のための食糧に対するエンパワーメント

市場、情報、知識の活用
- インフラと市場アクセスに対する投資
- 情報と通信の技術の活用
- 技術管理

参加と発言機会の強化
- 地方政府の強化
- 生産者組織に対する支援
- 市民社会とコミュニティ組織の参加の促進

社会正義と説明責任の増進
- 権利と説明責任の明確化
- 土地管理権の確定
- 大規模な土地取得の管理

女性の社会変革パワーの解放
- ジェンダー格差の重荷の理解
- 食糧の安定確保による女性の能力拡大
- 食糧を安定確保するための女性に対するエンパワーメント

政策オプションの概要

注釈

参考文献

統計別表

読者のための手引き

統計表
1 人間開発
2 食糧の供給力
3 食糧の消費
4 農業投入物
5 食糧に対するアクセス
6 食糧システムの安定性
7 持続可能性

統計用語の定義

テクニカルノート1

テクニカルノート2

統計に関する参考文献

＊本報告書に記載された分析と政策提言は、必ずしも国連開発計画（UNDP）および理事会の意見を反映したものとは限らない。

概要

サハラ以南アフリカにおける飢餓と窮乏は、あまりにも長きにわたって続いてきた。しかし、アフリカ住民は食糧不安の中で過ごさなければならない生涯に縛り付けられているわけではない。現在、食糧の安定確保の欠如を終わらせるための知識、技術、資源は現実に存在し、また今後も更なる調査と開発から打開策が打ち出されていくことだろう。だが、アフリカの農民に、より良い種子と、より多くの肥料を配給すれば事を済ませることができるとは、誰一人信じていない。また、経済成長だけがこの問題を解決するわけでもない。食糧不安という結果を招く欠陥は、農業、健康、教育、栄養政策から、調査研究、現地技術指導、衛生、地方政府、商業、輸送にいたるまで、広範囲にわたっている。これほど広範囲の課題に対する効果的な対処は、単一の介入、専門分野、制度に絞ることはできない。多分野での調整、対処が必要になる。

この初のアフリカ人間開発報告書では、農業生産性の向上が食の権利—人々が食糧を手に入れることができる能力—を保護すべきであると指摘する。人間開発の促進には、現在と将来の世代の潜在的可能性を実現する栄養政策が必要である。また、地域コミュニティは、衝撃を吸収するのに十分な回復力と、自らの生活について決定する権利を備えていることが必要である。

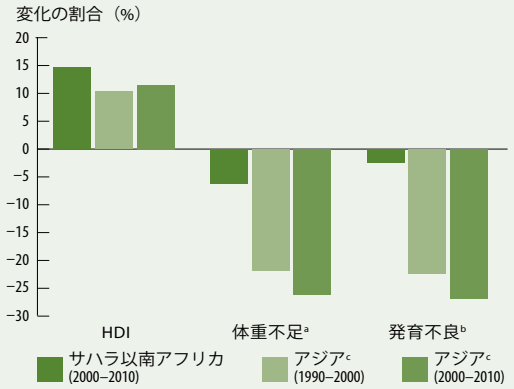
人間開発のための食糧の安定確保

あまりにも長きにわたって、サハラ以南アフリカについて連想するのは、人間性を奪う飢えだった。アフリカ住民の 4 人に 1 人以上が栄養不良であり、健康的で生産的な生活のための十分なカロリーと栄養分を日常的に摂取できないという食糧不安が、蔓延している。世界の他の地域では実質的に消え失せた飢饉の亡霊は、サハラ以南アフリカの各地にたびたび出没し続けている。飢饉は大々的に報じられているが、何百万人ものアフリカ住民にとって、慢性的な食糧不安と栄養不良はほとんど表面化することなく静かに進行する日常的な惨禍なのである。

しかし、サハラ以南アフリカは食物を栽培するための十分な農地、豊富な水、一般的に好条件の気候がある。そして、過去 10 年、多くのアフリカ諸国は記録的な経済成長率を示し、最も素早く人間開発指数を向上させた国の仲間入りを果たした。こうした自然の恵みと、経済的、社会的な実績があるのに、なぜ、この地域はいまだに食糧不安に陥ったままなのだろうか（図 1）。

この矛盾に注目することが本報告書の出発点である。

図1　**サハラ以南アフリカは栄養不良の軽減でアジアより遅れている**



a. 年齢の割には低体重
b. 年齢の割には低身長
c. 日本を除く
出典: Calculations based on World Health Organization, 2011, Global Database on Child Growth and Malnutrition, Geneva, www.who.int/nutgrowthdb/estimates/en/index.html, accessed 7 January 2012, and United Nations Development Programme, 2012, Human Development Report database, New York. http://hdr.undp.org/en/statistics, accessed 8 January 2012.

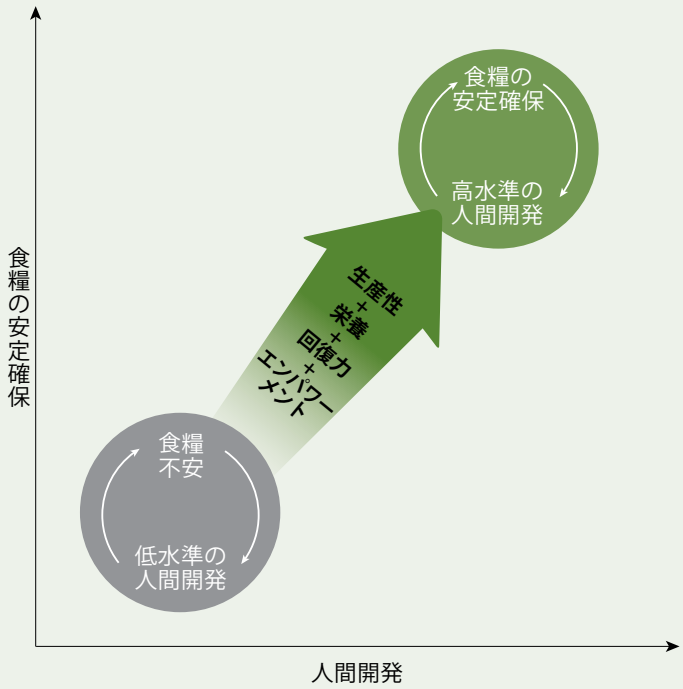
本報告書では、農業生産性の持続的な向上とより十分な栄養が、食糧の安定確保の向上と人間開発の原動力であると指摘する。その主張は単刀直入である。農業の生産性が向上すれば、食糧の供給力が高まり、食糧価格が下がってアクセスが容易になるため、食糧の安全確保ができるようになる。また、生産性が上がれば、何百万もの小規模自作農の収入が増加し、生活水準が向上し、健康と教育が改善され、人々の能力が拡大される。さらに、科学、技術、技術革新の普及による農業生産性の向上は、環境のマネジメントにも貢献する。十分な栄養は、食糧の安定確保を人間開発にリンクさせる。栄養状態が良い人々はさまざまな領域で自由と能力を行使でき、それこそ人間開発の真髄である好循環の中、自分たちのリーダーに食糧の安定確保を求めるようになるだろう。

人間開発のアプローチは、権利と能力に焦点を当てている。したがって、食糧の安定確保は、住民自身に選択させるためのエンパワーメントによって、また衝撃に直面した際の回復力を形成することによって梃子入れされるべきである。これは、住民の食の権利を保証すること、つまり貧しい人々が公正な市場で食糧を購入したり取引したりするのを可能にする収入、市場構造、制度上の規則や管理方法を確保することを意味する。また、健康と教育における人間の基本的な能力の増強も意味する。

政策の焦点をこれら四つの分野、すなわち農業生産性、栄養、回復力、エンパワーメントに当てることによって、食糧の安定確保と人間開発のダイナミックな好循環を生み出すことができる（図 2）。

サハラ以南アフリカは、人間開発の面で世界に後れをとっているが、この地域の変化のペースの加速化と最近の経済活力が、新たな楽観論の根拠となっている。

図2　**人間開発のための食糧の安定確保を目指す政策**



出典: Based on analysis described in the Report

サハラ以南アフリカの現況

サハラ以南アフリカには十分な農業資源がある。だが、残念なことに、この地域のあらゆる地方で何百万人もが依然として飢え、栄養不良のままである。—これは地方による食糧の生産と流通の明白な不均質性、および慢性的に不十分な食事、特に最も貧しい人々の食事の結果である。これは人々の尊厳の日常的な侵害であり、多くの政府は飢えから国民を守るという基本的な責任を果たしていない。

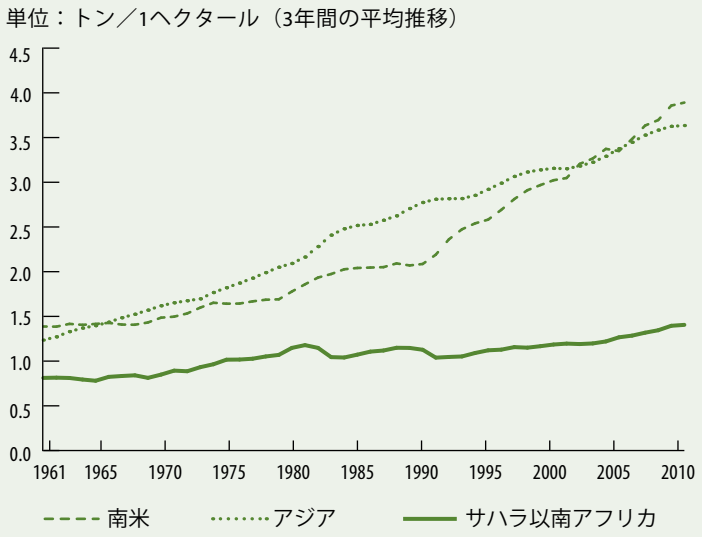
不安定な天候、大きく変動する食糧価格、紛争や暴力の影響を受けやすいこの地域では、食糧の供給から消費にいたるまで、食糧の安定確保の連鎖が常にストレスにさらされている。農業生産性は依然として低水準にとどまっており、他の地域よりはるかに低い（図 3）。サハラ以南アフリカの多くの国は食糧の純輸入国であるばかりか、頻繁に起きる人道的な危機の際には食糧援助に頼らざるを得ない。食糧がある場合でも、何百万人もが、未発達の市場、劣悪な道路、市場から遠く離れていること、高い輸送費によって、食糧を入手できなかったり購入や取り引きを妨げられたりしている。

食糧の供給力とアクセスは重要だが、食糧の安定確保はそれにとどまらない。食糧の適切な消費と十分な栄養は、食糧の安定確保が人間開発を支えるかどうかを決定付ける。栄養不良は病気や死につながる。安全な水、エネルギー、衛生に対する不十分なアクセスと HIV/エイズやマラリアなどの病気が組み合わされ、人の命を奪い、問題を永続させる。

飢えは、個人にも社会にも大きな代償を強いる。栄養不良の子どもたちは免疫システムが弱く、通常なら治癒可能な伝染病で死ぬ。妊娠後の最初の 1000 日間の栄養不良は、子どもの心身の成長に取り返しのつかない打撃を与える恐れがある。また、栄養不良の母親は、出産時に死亡したり、新生児期に生き残れない低体重児を出産したりする危険が大きい。幼児期を生き延びた子どもたちも発育が阻害され、自身の寿命が短くなりやすいのに加え、低体重児を産むという悪循環から抜け出せない。

アフリカ住民は何十年にもわたって飢えに直面してきており、何百万人もが、子どもの成長と大人の生産性を支えるのに必要な微量栄養素

図3　サハラ以南アフリカでは何十年にもわたって穀物の収穫量は横ばい状態である



出典: Calculations based on Food and Agriculture Organization of the United Nations, 2012, "FAOSTAT," Rome, http://faostat.fao.org, accessed 10 January 2012.

の不足した主食を食べてきた。飢えはまた、病気、死亡、障害を増大させることによって、社会を蝕んでいる。それは医療コストを膨らませ、労働者の生産性を低下させ、教育への社会的、経済的な見返りを縮小させている。基本的な人間の尊厳を侵害し、自尊心を傷つけているのである。

絶えることのない課題と新たな脅威

見当違いの政策、貧弱な制度、適正に機能しない市場は、サハラ以南アフリカの食糧不安のより根本的な原因である。この不名誉な遺産は、世帯やコミュニティで最も明白に見て取れる。そこでは、不平等な力関係が、自給自足の農民、土地をもたない貧しい人々、多くの女性と子どもなど脆弱なグループを、貧困、食糧不安、低水準の人間開発という悪循環に追いやっている。

何十年にもわたって、各国政府の政策と国際機関の方針は都市部の住民を優先して、サハラ以南アフリカの地方部と農業開発を無視してきた。その有害な遺物には、農業を後回しにして開発資源を使い尽くした植民地独立後の無駄な工業化計画が含まれている。構造調整プログラムで予算のギャップをふさごうとしたが、その代わりに人間開発、特に脆弱な貧しい人々の人間開発に多大の欠損が生まれ、国家予算と外国援助の歪んだ配分が農業と栄養の過小視につながった。

1990 年代半ば以来いくらか改善されているものの、アフリカ諸国の多くの政府は、農業に高い恣意的な税金を課す一方、他の分野に補助金、インセンティブ、マクロ経済的な支援を付与し続けている。それに対し、多くの先進国は反対の動きを進めてきた。すなわち、農業が開発の原動力としての役割を終えたずっと後にも農業に多大の補助金を出すことにより、自国の農民を国際貿易上きわめて有利にしているのである。偏向した政策によって隅に追いやられ、機能しない市場によって圧迫されているサハラ以南アフリカの小規模自作農は、とうの昔に世界の最も手ごわい農業システムと競争する努力をやめてしまった。

社会のあらゆるレベルで、過去と訣別し、少数の特権階級の既得権益に対抗し、力関係のバランスを取り戻す制度を構築するには、強い精神力をもった国民と献身的なリーダーが必要になる。こうした手段を講じることはますます急を要している。なぜなら、サハラ以南アフリカの持続可能な食糧システムに対する新たな脅威が生まれているからである。人口の変化、環境の圧力、世界的および局地的な気候変動が、この地域の開発の選択肢を大々的に再編成している（図 4）。

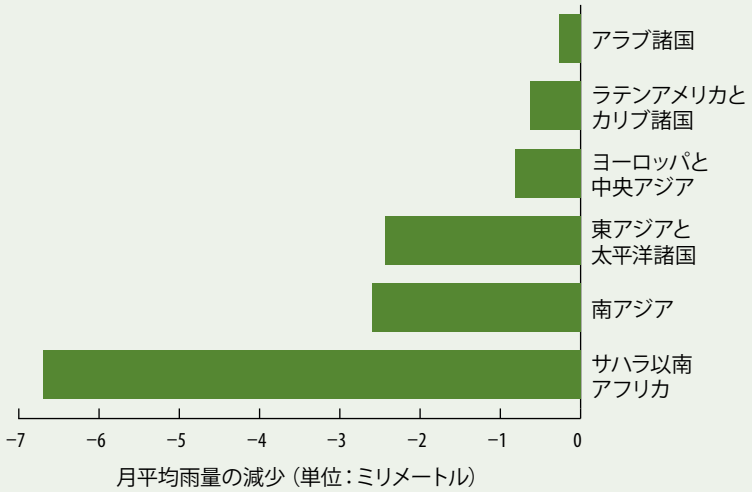
こうした新たな課題の重大性は、2050 年までにおよそ 20 億人になるというサハラ以南アフリカの人口膨張によって増幅される（図 5）。増大する食糧需要を満たすには、今後半世紀にわたって食糧作物の収量を大幅に押し上げ、気候変動と現行の農業慣行による農業生産に対するストレスを緩和する必要がある。こうした動きに対応した食糧生産、収入、生活を可能にするためには、農業生産性を迅速かつ持続的に向上させる以外にはない。

農業生産性の向上

地方の農業能力は、サハラ以南アフリカにおける食糧の安定確保の基盤である。これは、今までこれほど軽視されてこなければ改めて言うまでもない明白な真実である。農業は、食糧を安定確保する連鎖の最初のリンクである食糧の供給力を決定付ける。ほとんどのアフリカ住民、特に貧しい人々にとって、農業はまた、人間開発の中核的な要素である収入と仕事の源である。そして、収入と雇用が、十分な量の栄養のある食糧に対するアクセスを可能にすることによって食糧の安定確保を支える。こうした極めて重要で互いに補強し合う効果のほかに、農業は、この地域が多くの土地と水をどのように持続可能な形で消費するのかということをも規定する。

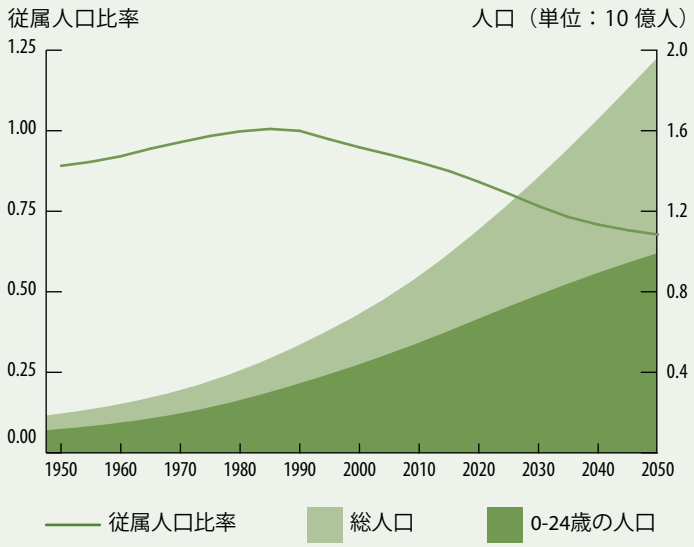
農業の重要性にもかかわらず、サハラ以南アフリカでは、政府が適切な政策をとらず、農地の生産性が低いことから、何世代にもわたって農業がその潜在能力を十分に発揮してこなかった。アフリカの小規模自作農は、昔から続いている農業のやり方で、開墾した森や放牧地で作物を栽培して、あるいは養分を補充せずに畑を

図4　サハラ以南アフリカは1951-1980年から2000年代にかけて、世界の中で最も雨量が減少



注: 地域はUNDPが定義したもの。地域平均は1950-2008年の平均人口をもとに加重されている。
出典: Calculations based on U.S. National Oceanic and Atmospheric Administration, n.d., "University of Delaware Air Temperature & Precipitation," U.S. National Oceanic and Atmospheric Administration Office of Oceanic and Atmospheric Research, Earth System Research Laboratory, Physical Sciences Division, Boulder, CO, www.esrl.noaa.gov/psd/data/gridded/data.UDel_AirT_Precip.html, accessed 7 January 2012.

図5　サハラ以南アフリカでは大幅な人口増加が見込まれる



出典: United Nations Department of Economic and Social Affairs, 2011, *World Population Prospects: The 2010 Revision,* New York: United Nations Department of Economic and Social Affairs, Population Division, www.un.org/esa/population.

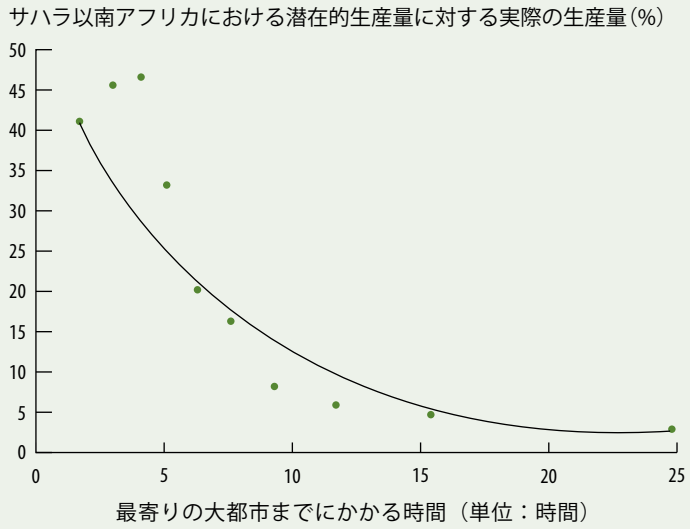
リサイクルして、長い間生き残ってきた。生産の増大は耕地面積の拡大によってであり、農作をより効率的にすることによってではなかった。農地のさらなる拡大の余地は失われつつあり、現在、農民は現代的な技術の助けを借りて、それぞれの今ある農地でより多くの食糧を生産する必要がある。生産性の向上は、農場の雇用、不熟練労働力を含む労働力のまずまずの賃金、地方のコミュニティの収入を生み出すことになる。

生産性を押し上げるには、より多くの肥料と種子、より精力的な調査と開発、地方の農業コミュニティの行動と動植物の生息環境に精通した専門家を配置したより調整されていて行動力を備えた農業拡大システムが必要である。国に長期のコストを押し付けずに小規模自作農に高収量の作物品種への変更を促す「スマート補助金」は、食糧生産と市場を活性化することができる。研究所で考えられた偏狭なものがうまくいかなかった場合でも、地元農民の知識を収穫高を向上させる「技術」の一部として包含した研究が結果を出すことができる。小規模自作農に新たな肥料や堆肥などの農業投入物の導入を奨励するには、彼らの変化に対する理解が必要である。

政策立案と組織化された調査は、健康と栄養のためになる品種の選択に焦点を当てるべきである。環境面で持続可能な農地技術を開発するためには、学際的な知識が必要である。現代的な農業技術は、収量を押し上げるだけでなく農業投入物を節約する解決方法を提供し、肥料と水の使用をより環境に負荷のかからないようにすることができる。科学と革新の創出と普及には、育種家、研究者、農民の間のより多くの協力が必要である。

灌漑はサハラ以南アフリカに対し、長期にわたる課題を突きつけている。ほとんどの国は、持続可能で雇用集約的な水の管理のために設計された灌漑方法に多額の投資をしなければならない。しかし、この地域のすべての地方で灌漑が必要なわけではない。多くの半湿潤地帯と湿潤地帯には、他の水管理手段を可能にするのに

図6　市場への限られたアクセスが農業生産を阻害（2000年）



注: 各測定値は、人口10万人以上の最寄りの都市までかかる推定時間をもとにした十分位数を表している。曲線は指数関数に適合している。
出典: Dorosh, Paul, Hyoung-Gun Wang, Liang You, and Emily Schmidt, 2012, "Road Connectivity, Population, and Crop Production in Sub-Saharan Africa," *Agricultural Economics* 43 (1): 89–103, table 2, p. 92.

十分な水がある。

一層十分な市場アクセスも収量を押し上げることができる（図6）。農民が迅速かつ安上がりな形で余剰作物を輸送できれば、生産を増やそうという気になる。これには、市場開発政策、競争を導入するための輸送規則の改革、および地方の道路、情報技術、鉄道、倉庫に対するかなりの投資が必要である。革新的な仕組みを用いた融資と保険に対するアクセスは、新しい農業投入物導入のリスクを引き下げ、農民が新しい品種で実験する動機になる。

アフリカの若者を農業に惹きつければ、農業開発に新しいエネルギーとアイデアがもたらされる。技術と革新は、若者が沈滞しているとして敬遠するようになっている分野の価値連鎖に沿った、魅力的な儲かる働き口、仕事、職業を創出できる。三つの強み—若者の大々的な増加、革新の進展、農業開発の明るい展望—は、多くの国にとって当然の進むべき道である。

より高水準の農業生産性は、三つの恩恵—持続可能な食糧の安定確保、一層の人間開発、土地と水に対するプレッシャの低下—を生むことができる。しかし、各国政府は、必要な投資をまかなうために優先順位を再考しなければならなくなる。パンより銃を、農地より都市を、栄養より脂っこい食品を優先する自滅的な政策は無用である。農業の調査と開発、および土地と水の管理に対する多額の投資に関する効果的な地域協力に対する十分な資金供給は、銃弾が飛び交ったり重要な農業地帯を燃料タンクに転換したりする紛争よりは、サハラ以南アフリカにとってより豊かな結果をもたらす（表1）。

食糧の安定確保から栄養の充実による人間開発へ

サハラ以南アフリカからのニュースは容易に予測できる。第一面に飢饉と人道的な食糧危機、経済面に大きく変動する世界の食糧価格、付録には衰えた子どもの気の遠くなるような画像。だが、アフリカを語る上で飢えが主役になっているが、飢えの陰の共犯者である栄養不良は、めったに見出しになることはない。栄養不良は人間開発の障害であり、人生の初期段階で個人に不可逆的なダメージを負わせ、今後何年にもわたって各国に多大の経済的喪失と社会的喪失を押し付けることになる。

栄養不良は幼少期の疫病である。それは隠れた飢えの形で何世代にもわたる可能性がある。つまり、過去に質の悪い食糧を摂取していると、命をも蝕む栄養不足状態になる恐れがあるのだ。しかし、彼らの伝統的な食事を守りながら、食糧補強はできる。微量栄養素の摂取の改善が、栄養不良と闘う上で最も効果的でしかもコスト効果が高い方法である。一握りの栄養素

表1　農業生産高を持続的に向上させる政策オプション

政策オプション	食糧システムの安定性		
	食糧の供給力	食糧へのアクセス	食糧の消費
農業投入物の導入と持続的な消費	・肥料、種子、水		
インフラと金融市場	・融資と保険 ・地方インフラ（道路、倉庫、灌漑を含む水の管理）		
地元の知識の創出と適用	・農業科学と技術 ・現地技術指導と、地元に適した知識の生成と普及に対する支援。食糧消費の改善を含む。 ・農業と地方での活動への若者の取り込み。起業精神と革新を含む。		

出典: Based on analysis described in the Report.

（ビタミン A、ヨウ素、鉄、亜鉛）に集中すれば、少ない農業投入物でも人間開発の面で大きな見返りが得られる―これは、社会の最も効率的な開発投資の一つである。

栄養面で極めて重要で最もコスト効果の高い介入の多くは、それほど費用がかかるものではない。その一つは女性のエンパワーメントである。これは、各世帯が世代間の貧困の循環を断ち切るのに役立つ将来にわたる介入となる。さまざまな決定で男性より女性の発言力が弱ければ、栄養不足に陥り、世帯の食糧の安定確保は悪化し、保健に対するアクセスが低下する。女性が世帯の家庭の意思決定に影響力を持つようになると、たいていの場合、子どもの栄養状態は良くなる。

栄養が十分な人々は、より生産的で学習を受け入れる姿勢が強い。栄養が十分な子ども達は、より十分に勉強し、自分たちが望む人生を送る可能性が高い。実際、栄養の重要性は子どもたちが生まれる前からもうすでに始まっている。妊娠中の栄養は、子どもたちの学習と成長に長期的な恩恵をもたらすからである。

食品科学は、貧しい人々の食事を改善する新しい方法を明らかにしつつある。バイオ技術による栄養強化―作物に栄養素を送り込む―に関する研究は、非常に有望である。なぜならば、それが、貧しい人々が毎日大量に食べる未加工の食品に焦点を当てているからである。バイオ技術による栄養強化は、商業的に栄養が強化された加工食品を摂取しない低所得の世帯を暗黙のうちにターゲットにしている。この技術には限界があるが、アフリカ住民の伝統的な食事の栄養を大幅に高める可能性がある。

栄養は、政治経済学や季節的な条件や気候条件から、文化的な習慣や宗教上の習慣、保健サービスの利用しやすさや、健全な食事の仕方や保健慣行の知識を含む世帯の教育水準にいたるまで、様々な状況の影響を受ける。同様に影響を及ぼしているのが、農業生産と収入、栄養のある多彩な食品、衛生環境、安全で十分な水や調理燃料である。

これほど多面的な課題には、多分野にわたる栄養戦略で取り組む必要がある。すなわち、政府の高水準の肩入れ、十分な資源、国、市民社会、民間部門、国際社会による栄養に関係する介入のある戦略である（表 2）。栄養という課題は、政策課題にし、各家庭にも広めていかなければならない。さもないと、サハラ以南アフリ

表2　十分な栄養摂取を推進する政策オプション

政策オプション	食糧システムの安定性		
	食糧の供給力	食糧に対するアクセス	食糧の消費
個々人への働きかけ			・妊娠を遅らせる ・妊娠と授乳の期間中の十分な栄養
公共サービスの拡大			・食糧消費に関する教育 ・保健 ・学校給食プログラム ・現金給付
公共活動と栄養に焦点を当てた政策の立案		・微量栄養素キャンペーン ・行動変化キャンペーン ・栄養補助、食品の栄養強化、バイオ技術による作物の栄養強化	
	・ジェンダーの平等と、女性の法的権利の拡大 ・国家政策と国際的な指針の関与		

出典: Based on analysis described in the Report.

力は、国民と社会に対して、この地域を機能不全にしてしまうような損失を生んでしまうことになる。

回復力の構築

サハラ以南アフリカにおける食糧の供給は、畑から食卓までリスクに満ちている。さまざまな衝撃、循環、傾向が食糧の安定確保と暮らしを脅かしている。紛争、旱魃、洪水、食糧価格の急騰、その他の衝撃が、最も貧しい人々や脆弱な世帯に直接的な苦痛を負わせ、将来の人間開発を制約している。また、しばしばそのダメージは永続的である。収穫の間の長い「飢えの季節」を生む季節的な収穫パターンや、徐々に進行する環境悪化など周期的あるいは長期のストレスは、比較的進展が緩やかで予測可能である。だが、それでも、コミュニティ—特に、危険にさらされた状態をどうすることもできず、暮らしを守ることができないコミュニティ—を荒廃させる。人口増加によるストレスが蔓延し大きくなりつつある。

さまざまなストレスが食糧システムの基盤を蝕む前に、ストレスを防いだり緩和したりする為には、環境から、紛争解決、市場の安定、女性のエンパワーメントにいたるまで多数の領域にまたがった行動が必要である。長期的な見通しでは、気候変動を考慮した政策強化で、農業が気候変動に与える影響を抑えることが必要である。農業生産性を押し上げる手法を確実に持続可能にすれば、農民は環境ストレスを増やさずに気候変動に順応し、現在の養分の豊かな土壌の恩恵を手にできるようになる。

この地域紛争を抑制する措置を講じれば、食糧システム崩壊の頻度が減るであろう。世界の食糧価格の変動幅を縮められるのは、国際社会の団結した努力である。しかし、アフリカ諸国は、食糧輸入国のより良い市場アクセス、輸出国に対するより少ない制限、バイオ燃料市場のより小さな歪みを基軸とする農業と食糧の安定確保の新しいグローバルな構造支持に大きな利害関係がある。

高まりつつある食糧供給に対する人口増加への効果的な対処は、教育、収入、仕事、効果的な家族計画サービスに対する女性のアクセスの改善による女性の能力の拡大から始まる。

先見的な手段は、食糧システムに対するストレスを和らげることができる。あるいは、少なくとも最もダメージの大きい圧力の頻度と強度を低下させることができる。しかし、それでも危機は起こるのであるから、貧しいコミュニティはリスクを管理し、衝撃に対処する備えをしておかなければならない。保険、雇用保護、食糧と雇用創出・現金報酬プログラム、食糧援助、補助金、社会移転など社会的保護は、危機に見舞われた世帯が生き残るのか打ち負かされるのかを決定付ける可能性がある。

しかしながら、食糧システム荒廃の回避と崩壊の影響の緩和は、とても進んでいるとは言い難い。最も効果的な社会的保護方針は、中核的な生産上の強み—サハラ以南アフリカでは労働力と土地—に対する見返りを増やし、人々を貧困から脱却させ、社会的支援に対する彼らのニーズを減らし、繰り返し襲ってくる衝撃に耐える能力を形成することである。技術に対する農民のアクセスを拡大し、地方市場と商品価格を安定させ、地方のインフラを増強する手段に社会的保護をリンクさせれば、農民、世帯、市場はより回復力をもてるようになる(表 3)。

エンパワーメント、社会正義、ジェンダー

本報告書は、サハラ以南アフリカでは、食糧に対する基本的権利および生命そのものに対する権利が、耐え難いほど侵害されていることを示している。食糧の安定確保が可能な大陸を形成するには、抜本的な変化が必要である。最も効果的なのは、資源、能力、決定権を農民、貧しいコミュニティ、女性に移転させることである。女性や他の脆弱なグループが自分たちの生命や暮らしに影響する決定において発言できるようになれば、そうした人々が食糧を生産し、取り引きし、消費する能力が大幅に強化される。

知識と組織が公共の場を開く鍵となる。情報技術は、市場価格と状況に関する最新の知識を農民の指先にもたらして彼らの目的遂行手段を増やすことができる。一方、協同組合

表3　サハラ以南アフリカの食糧の安定確保と人間開発の回復力の強化のための政策オプション

政策オプション	食糧システムの安定性			
	食糧の供給力		食糧に対するアクセス	食糧の消費
食糧システムに対するストレスの防止と緩和	・長期にわたる持続可能性を強化する政策（人口増加、気候変動、紛争と暴力、マクロ経済の安定、市場改革など）			
脆弱性を低下させ、リスクを管理する	・食糧援助	・天候スライド方式の保険 ・物価スライド方式の現金給付 ・地域戦略と国家戦略としての穀物備蓄 ・市場情報の入手しやすさの向上	・条件付きまたは無条件の現金給付 ・現金と食糧の給付	・健康保険 ・学校給食プログラム ・ワクチン接種 ・食事療法
食糧の安定確保と人間開発の強化	・農業投入物への補助金 ・仕事のための投入物 ・農業投入物の見本市		・雇用保証制度 ・物理的インフラのための公共工事プログラムとリンクした現金給付	

出典: Based on analysis described in the Report.

や生産組合は、集団的な交渉の場を提供できる。食糧市場の関係者―農民、輸送業者、売り手、買い手が、定期的かつ迅速に情報を交換すれば、コストと取引時間が減り、農民の収入が増える。連結を強めることによって農民はより優れた取引者になり、市場はより透明になる。

新たな農業投入物と農業手法は、農民を低生産性と貧困の悪循環から解放する。だが、技術は両刃の剣である。適用を誤れば、小規模自作農を一文無しにしたり、社会の片隅に追いやったりする。消費される場所から遠く離れておこなわれ、厳密な学問の形で現地の関係性を考慮しなかった科学的研究は、小規模自作農や地元住民にあまり適さない設計につながる恐れがある。

政治的、経済的、社会的な力が広範囲に広まれば、参加と発言機会がより多くなる。地域によって決められた解決方法は、大抵、トップダウンによる決定よりも持続可能である。生産者組織は農民の政治的な声を増幅し、売買に関わる費用を減らし、集団的なアプローチの妥協点を提供する。コミュニティベースの目標設定は、社会的保護に最も値する人々を特定する地元の知識に基づいており、エリートたちが社会移転を横取りするのを防止できる。

アフリカの農民は、自主的な市民社会組織で声を上げてきた。それらの組織は、さまざまな問題に世間の関心を向けさせ、政府のすることを監視し、基本的人権に沿って行動するように政府に働きかけることができる。権利ベースの組織のほかに、慈善、復興、救済に焦点を当てた開発ベースの市民社会組織が、食糧の安定確保に関わっている。しかしアフリカの市民社会はまだ発展段階にあるので、食糧の安定確保を提供する際のその役割は考慮に入れることも完全に頼りにすることもできない。

発言にはそれに対応する説明責任がなければならない。責任のある当局が関係するコミュニティに対応したら、社会正義が果たされたことになる。短期的には、コミュニティ組織や市民活動が多くのギャップを埋めなければならない。社会的保護プログラムや他の公共サービスおよび市民の権利の現状に対する介入を高める権利ベースのアプローチは、国民と政府の間の社会契約を強化できる。

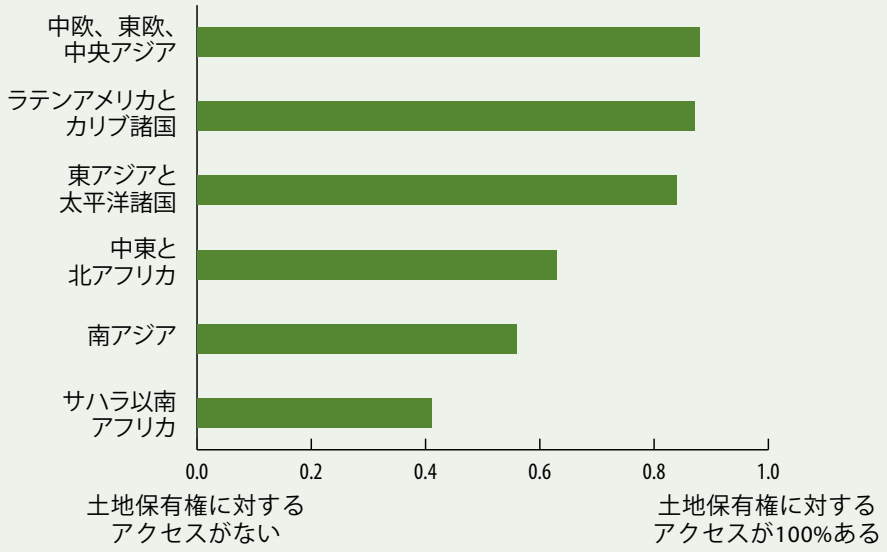
小規模自作農にとって土地の管理権は極めて重要である。サハラ以南アフリカでは、一家の財産は代々受け継がれる。その際、「保有権」について明確な定義がないので、小規模自作農は、追放や不法占有に対して弱い立場に置かれている（図 7）。これは特に地方の女性に当てはまる。

こうした不確かな状況を悪化させる恐れのある新たな展開は、最近の世界的なサハラ以南アフリカの土地の争奪戦である。一つのリスクとして、大規模投資が、事前協議や十分な補償がないまま人々を追い出すという事態が考えられる。多くの人々が農業に従事している諸国では、まず非農業分野での生活機会を生み出さずに彼らを土地から切り離すことは、貧困、失業、食糧不安を増大させる可能性が高い。

女性のより十分な教育、資源の直接的な管理、意思決定の際のより明白な発言を通しての能力拡大と、食糧の安定確保の強化との間には、強く相互に補強し合う結び付きがある。サハラ以南アフリカの農業労働力のほぼ半分を占める女性のエンパワーメントは、食糧の安定確保を多側面から促進するために極めて効率的な手段である。しかし、女性のエンパワーメントは、そういった優れた手段としての性質や考えられる効率性の向上といったレベルを超えた中心的な優先政策になる。なぜならば、平等と非差別には固有の価値があるからである。この理由だけで、女性の権利は人権として促進するに値する。だが、サハラ以南アフリカの女性は男性より、所有物、土地、融資などの生産的な資源に対する管理権の面で劣っている。女性はしばしば、市場を介さなかったり軽視されたりする活動に時間を費やしている。裁判や市場などの重要な制度に対する女性のアクセスは限られている。

飢饉と食糧危機は、世界でどの地域よりも、サハラ以南アフリカを苦しめ続けている。非常に多くのアフリカ住民が苦闘し、「何とかしのいでいる」飢えと絶望の悪循環は、あまりにも

図7　**サハラ以南アフリカでは他のどの地域よりも女性の土地保有権が弱い（2009年）**



注: 地域はUN Womenが定義したもの
出典: United Nations Entity for Gender Equality and the Empowerment of Women, 2011, *2011–2012 Progress of the World's Women: In Pursuit of Justice,* New York, map 1.1, p. 40.

しばしば彼らを捕らえ、消え失せる兆しをまったく見せていない。このぞっとする状況に対する責任は、この地域と世界中の政府、諸機関、市場が分かち合わなければならない。サハラ以南アフリカの食糧の安定確保という課題は手強く、早急に取り組むべきものであり、必要な投資はかなりの額になる（表 4）。しかし、人間開発の面で得られるであろう成果は、測りしれないものがある。

表4　食糧の安定確保を助長する政策オプション

	食糧システムの安定性		
政策オプション	**食糧の供給力**	**食糧へのアクセス**	**食糧の消費**
情報と知識へのアクセス	・情報と通信技術 ・農場技術の革新	・新技術。特に女性の時間的負担を減らし、情報アクセスへの平等性を高める技術 ・基本的な教育	
発言と参加	・生産者組合 ・品種選別と飼育のためのジェンダーに配慮した参加方法	・ターゲットを絞った現金給付プログラム ・市民社会組織	
社会正義と説明責任	・社会監査 ・責任ある組織 ・特に女性に対する権利と保証 ・女性に焦点を当てた土地へのアクセスとその保有権 ・報道の自由		

出典: Based on analysis described in the Report.

統計表1　人間開発指数（HDI）と構成要素

国	人間開発指数 HDI値 2011年	出生時 平均余命 （歳） 2011年	平均 就学年数 2011年	予測 就学年数 2011年	一人あたりの 国民総所得（GNI） 2005年の 米ドル建てPPP[a] 2011年
アンゴラ	0.486	51.1	4.4	9.1	4,874
ベニン	0.427	56.1	3.3	9.2	1,364
ボツワナ	0.633	53.2	8.9	12.2	13,049
ブルキナファソ	0.331	55.4	1.3	6.3	1,141
ブルンジ	0.316	50.4	2.7	10.5	368
カメルーン	0.482	51.6	5.9	10.3	2,031
カーボベルデ共和国	0.568	74.2	3.5	11.6	3,402
中央アフリカ	0.343	48.4	3.5	6.6	707
チャド	0.328	49.6	1.5	7.2	1,105
コモロ	0.433	61.1	2.8	10.7	1,079
コンゴ民主共和国	0.286	48.4	3.5	8.2	280
コンゴ共和国	0.533	57.4	5.9	10.5	3,066
コートジボワール	0.400	55.4	3.3	6.3	1,387
赤道ギニア	0.537	51.1	5.4	7.7	17,608
エリトリア	0.349	61.6	3.4	4.8	536
エチオピア	0.363	59.3	1.5	8.5	971
ガボン	0.674	62.7	7.5	13.1	12,249
ガンビア	0.420	58.5	2.8	9.0	1,282
ガーナ	0.541	64.2	7.1	10.5	1,584
ギニア	0.344	54.1	1.6	8.6	863
ギニアビサウ	0.353	48.1	2.3	9.1	994
ケニア	0.509	57.1	7.0	11.0	1,492
レソト	0.450	48.2	5.9	9.9	1,664
リベリア	0.329	56.8	3.9	11.0	265
マダガスカル	0.480	66.7	5.2	10.7	824
マラウイ	0.400	54.2	4.2	8.9	753
マリ	0.359	51.4	2.0	8.3	1,123
モーリタニア	0.453	58.6	3.7	8.1	1,859
モーリシャス	0.728	73.4	7.2	13.6	12,918

国	人間開発指数 HDI値 2011年	出生時 平均余命 （歳） 2011年	平均 就学年数 2011年	予測 就学年数 2011年	一人あたりの 国民総所得（GNI） 2005年の 米ドル建てPPP[a] 2011年
モザンビーク	0.322	50.2	1.2	9.2	898
ナミビア	0.625	62.5	7.4	11.6	6,206
ニジェール	0.295	54.7	1.4	4.9	641
ナイジェリア	0.459	51.9	5.0	8.9	2,069
ルワンダ	0.429	55.4	3.3	11.1	1,133
サントメ・プリンシペ	0.509	64.7	4.2	10.8	1,792
セネガル	0.459	59.3	4.5	7.5	1,708
セーシェル	0.773	73.6	9.4	13.3	16,729
シエラレオネ	0.336	47.8	2.9	7.2	737
南アフリカ	0.619	52.8	8.5	13.1	9,469
南スーダン[b]	..	..	..	..	..
スワジランド	0.522	48.7	7.1	10.6	4,484
タンザニア	0.466	58.2	5.1	9.1	1,328
トーゴ	0.435	57.1	5.3	9.6	798
ウガンダ	0.446	54.1	4.7	10.8	1,124
ザンビア	0.430	49.0	6.5	7.9	1,254
ジンバブエ	0.376	51.4	7.2	9.9	376
サハラ以南アフリカ	**0.463**	**54.4**	**4.5**	**9.2**	**1,966**

注:

a 購買力平価

b 南スーダンの統計は、この統計表の基礎となる国際統一データ源からはまだ十分には入手できていない。本報告書の本編のテクニカルノート2に、南スーダンの人間開発と食糧の安定確保に関する最新の国別データが掲載されている。

出典:

Column 1: Human Development Report Office (HDRO) calculations based on data from UNDESA (United Nations Department of Economic and Social Affairs), 2011, *World Population Prospects: The 2010 Revision,* New York: United Nations Department of Economic and Social Affairs, Population Division, www.un.org/esa/population; Barro, Robert J., and Jong-Wha Lee, 2010, *A New Data Set of Educational Attainment in the World, 1950–2010,* NBER Working Paper 15902, Cambridge, MA: National Bureau of Economic Research; UNESCO (United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization) Institute for Statistics, 2011, UNESCO Institute for Statistics: Data Centre, http://stats.uis.unesco.org; World Bank, 2012, World Development Indicators database, Washington, DC, http://data.worldbank.org/data-catalog/world-development-indicators; and IMF (International Monetary Fund), 2011, World Economic Outlook database, April 2011, Washington, DC, www.imf.org/external/pubs/ft/weo/2011/01/weodata/index.aspx.

Column 2: UNDESA, 2011, *World Population Prospects: The 2010 Revision,* New York: United Nations Department of Economic and Social Affairs, Population Division, www.un.org/esa/population.

Columns 3 and 4: HDRO calculations based on data from Barro, Robert J., and Jong-Wha Lee, 2010, *A New Data Set of Educational Attainment in the World, 1950–2010,* NBER Working Paper 15902, Cambridge, MA: National Bureau of Economic Research.

Column 5: HDRO calculations based on data from World Bank, 2012, World Development Indicators database, Washington, DC, http://data.worldbank.org/data-catalog/world-development-indicators; IMF, 2011, World Economic Outlook database, April 2011, Washington, DC, www.imf.org/external/pubs/ft/weo/2011/01/weodata/index.aspx; and UNDESA, 2011, *World Population Prospects: The 2010 Revision,* New York: United Nations Department of Economic and Social Affairs, Population Division, www.un.org/esa/population.

人間開発報告書

グローバル版『人間開発報告書』

各年版『人間開発報告書』は、開発に関する問題、傾向、進歩、さらには政策に関する客観的かつ経験に基づいた分析として、国連開発計画（UNDP）によって 1990 年から刊行されています。また報告書に関する資料、およびそれ以前の『人間開発報告書』の全てのテキストと概要は、国連の主要言語に翻訳され、無償でホームページ（http://hdr.undp.org）から入手できます。さらに、『人間開発報告書』に関連した統計指標をはじめ、データツール、インタラクティブマップ、各国の状況報告書も同様に入手できます。

地域別『人間開発報告書』

UNDP の地域事務所から支援を得て、過去 20 年以上にわたって地域に焦点を当てた 40 以上の独自編集の『人間開発報告書』も刊行されています。しばしば挑発的な分析、政策による権利擁護から、これらの地域的『人間開発報告書』は人権擁護やアラブ諸国における女性のエンパワーメント、アジア・太平洋地域における腐敗、中央ヨーロッパにおけるロマ族や他の少数民族の処遇、ラテンアメリカ・カリブ海諸国における富の分配の不公平といった重要な問題を分析しています。

国別『人間開発報告書』

1992 年、初めての国別『人間開発報告書』を刊行して以来、UNDP の支援を受けた各国の編集チームによって 140 か国以上で作成されています。これまで 650 以上も刊行されているこれらの『人間開発報告書』は、各地域で行われている協議と研究を通して、国政に人間開発という視点をもたらしている。国別『人間開発報告書』は頻繁にジェンダー、民族性、あるいは不平等さを認識する一助となる農村対都市という区分、進歩の度合いに焦点を当て、潜在的対立などの前兆をいち早く見つけています。というのも、これら国の要望や見通しに立脚しているので、国別『人間開発報告書』はミレニアム開発目標やその他の人間開発に関する優先事項達成のための戦略を含め、国の政策に大きな影響を持つことになりました。

参考資料を含む、国別、地域別『人間開発報告書』に関して、詳細をお知りになりたい方は、http://hdr.undp.org/en/nhdr をご参照ください。

1990 ー 2011 年にかけての人間開発報告書

1990　人間開発の概念と測定
1991　人間開発と財政
1992　人間開発の地球的側面
1993　人々の社会参加
1994　「人間の安全保障」の新しい側面
1995　ジェンダーと人間開発
1996　経済成長と人間開発
1997　貧困と人間開発：貧困撲滅のための人間開発
1998　消費パターンと人間開発：人間開発に資する消費とは
1999　グローバリゼーションと人間開発：
　　人間の顔をしたグローバリゼーション
2000　人権と人間開発：自由と連帯を目指して
2001　新技術と人間開発：新技術を人間開発に役立てる
2002　ガバナンスと人間開発：モザイク模様の世界に
　　民主主義を深める
2003　人間開発報告書―ミレニアム開発目標（MDGs）達成に向けて
2004　人間開発報告書―この多様な世界で文化の自由を
2005　人間開発報告書―岐路に立つ国際協力：
　　不平等な世界での援助、貿易、安全保障
2006　人間開発報告書―水危機神話を越えて：
　　水資源をめぐり権力闘争と貧困、グローバルな課題
2007/2008
　　人間開発報告書―気候変動との戦い：
　　分断された世界で試される人類の団結
2009　人間開発報告書―障壁を乗り越えて：人間の移動と開発
2010　人間開発報告書―国家の真の豊かさ：人間開発への道筋
2011　人間開発報告書―持続可能性と公平性：
　　より良い未来をすべての人に

『人間開発報告書 2007/2008』、『人間開発報告書 2009』、『人間開発報告書 2010』、ならびに『人間開発報告書 2011』日本語版は、㈱阪急コミュニケーションズから発売されています（お問合せ：03-5436-5721　ホームページ：http://hankyu-com.co.jp）。なお、1994 年ー 2006 年までの『人間開発報告書』日本語版のご購入については、UNDP 駐日代表事務所（03-5467-4751）までお問い合わせください。

アフリカ人間開発報告書2012　概要版

2012年6月

発行：国連開発計画（UNDP）駐日代表事務所
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-70
UN ハウス8F
http://www.undp.or.jp

あまりにも長きにわたって、サハラ以南アフリカについて連想するのは、人間性を奪う飢えであった。食糧不安—健康的で生産的な生活のための十分なカロリーと栄養分を日常的に摂取できないこと—が、蔓延している。世界の他の地域では実質的に消え失せた飢饉の亡霊は、サハラ以南アフリカの各地にたびたび出没し続けている。

しかし、この地域には食物を栽培するための十分な農地、豊富な水、全般的に好都合な気候がある。そして、過去 10 年、多くのアフリカ諸国は記録的な経済成長率を示し、迅速に人間開発指数を向上させた国の仲間入りを果たした。この初のアフリカ人間開発報告書は、これら二つの調和しないパラドックスの根深い原因を探り、食糧の安定確保と人間開発が互いに増進し合う時代を開く選択肢を見極めようとしたものである。

サハラ以南アフリカでは、食糧の供給から消費にいたるまで、食糧の安定確保の連鎖が絶えずストレスにさらされている。農業生産性は依然として他の地域より低水準にとどまっている。多くの国は食糧の純輸入国であり、幾つかの国は頻繁に食糧援助を必要としている。食糧がある場合でも、何百万人もが食糧を買う資金がなかったり、購入や取引を妨げられたりしている。食糧の供給力とアクセスは重要だが、食糧の安定確保にはそれ以上のものがある。食糧の適切な消費は、食糧の安定確保が人間開発を支えるかどうかを決定付ける。栄養不良は病気や死につながる—水、エネルギー、衛生に対する不十分なアクセスと HIV ／エイズやマラリアなどの病気が組み合わされ、人の命を奪うのである。

見当違いの政策、貧弱な制度、適正に機能しない市場は、サハラ以南アフリカの食糧不安の根本的な原因である。この不名誉な遺産は、世帯やコミュニティで最も明白に見て取れる。そこでは不平等な力関係が、脆弱なグループを貧困、食糧不安、低水準の人間開発という悪循環に追いやっている。さらに、人口の変化、環境の圧力、気候変動が、この地域の食糧の安定確保に恐るべき脅威を加えている。

本報告書は、次の四つの相互に関連した分野における行動を指摘している。第 1に、持続可能な形で農業生産性を押し上げれば、食糧生産と購買力を支えることによって食糧の供給力を改善できる。第 2に、効果的な栄養政策があれば、カロリーと栄養分を適切に吸収して消費するための条件を設定できる。第 3に、回復力のあるコミュニティや世帯を形成すれば、食糧に対するアクセスを保護できる。第 4に、地方の貧しい人々、特に女性のエンパワーメントは、情報、革新、市場の力を養成し、家族およびコミュニティ全体で食糧を公平に配分することによって、食糧に対するアクセスを改善できる。

サハラ以南アフリカの飢えと飢餓の終焉が大いに待ち望まれている。

Copyright © 2012
by the United Nations Development Programme
Regional Bureau for Africa (RBA)
1 UN Plaza, New York, NY 10017, USA

UNDP
Empowered lives.
Resilient nations.

www.undp.org